



2024年12月20日

各 位

会 社 名 中央自動車工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 坂田 信一郎
(コード番号 8117 東証スタンダード市場)
問合せ 常務取締役総務本部長 住吉 哲也
(TEL 06-6443-5192)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年12月20日開催の取締役会において、資本コストや資本収益性、株価について現状分析・評価を行うとともに、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた方針や取り組みについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

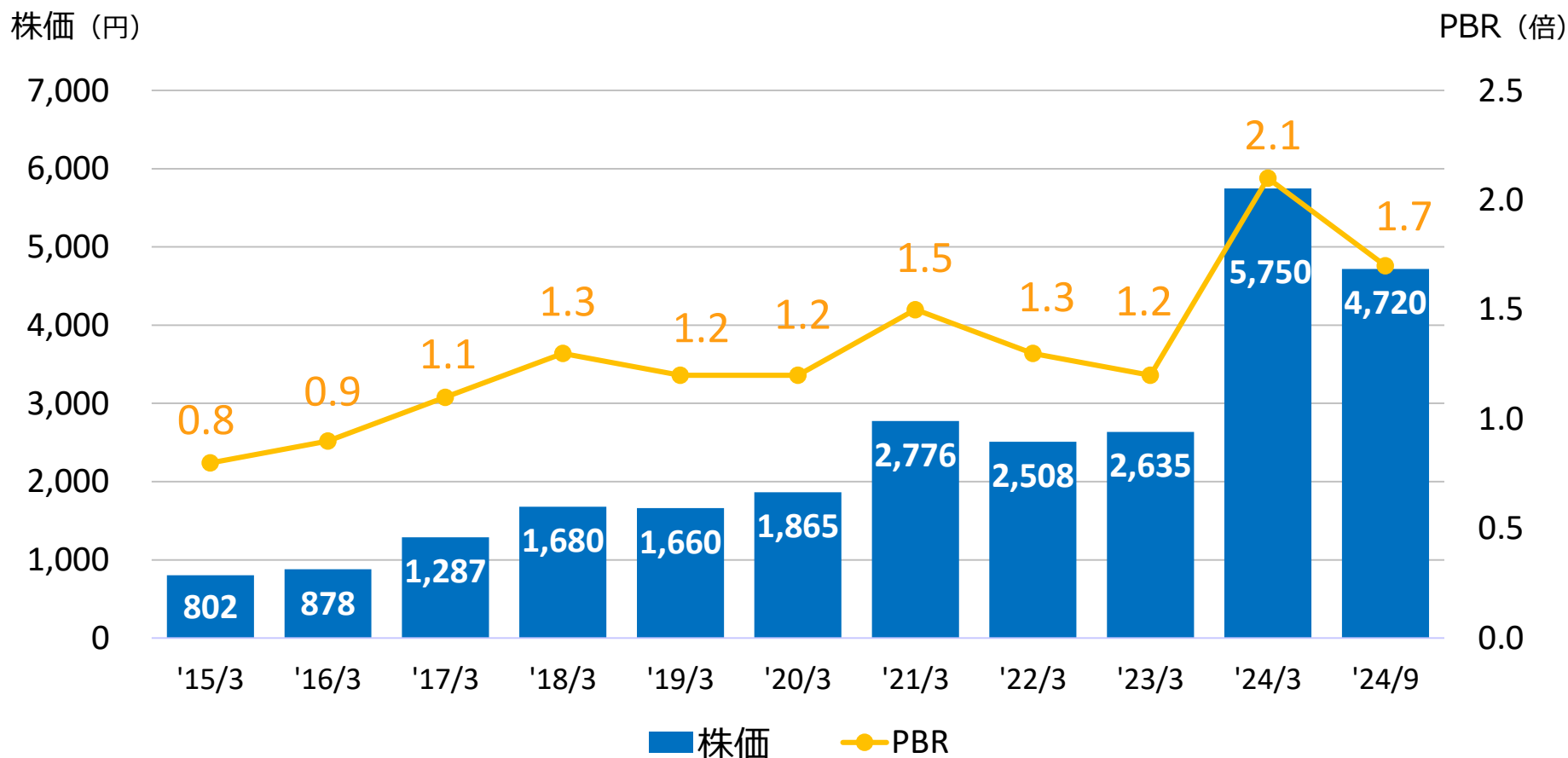


資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けた対応について

2024年12月20日

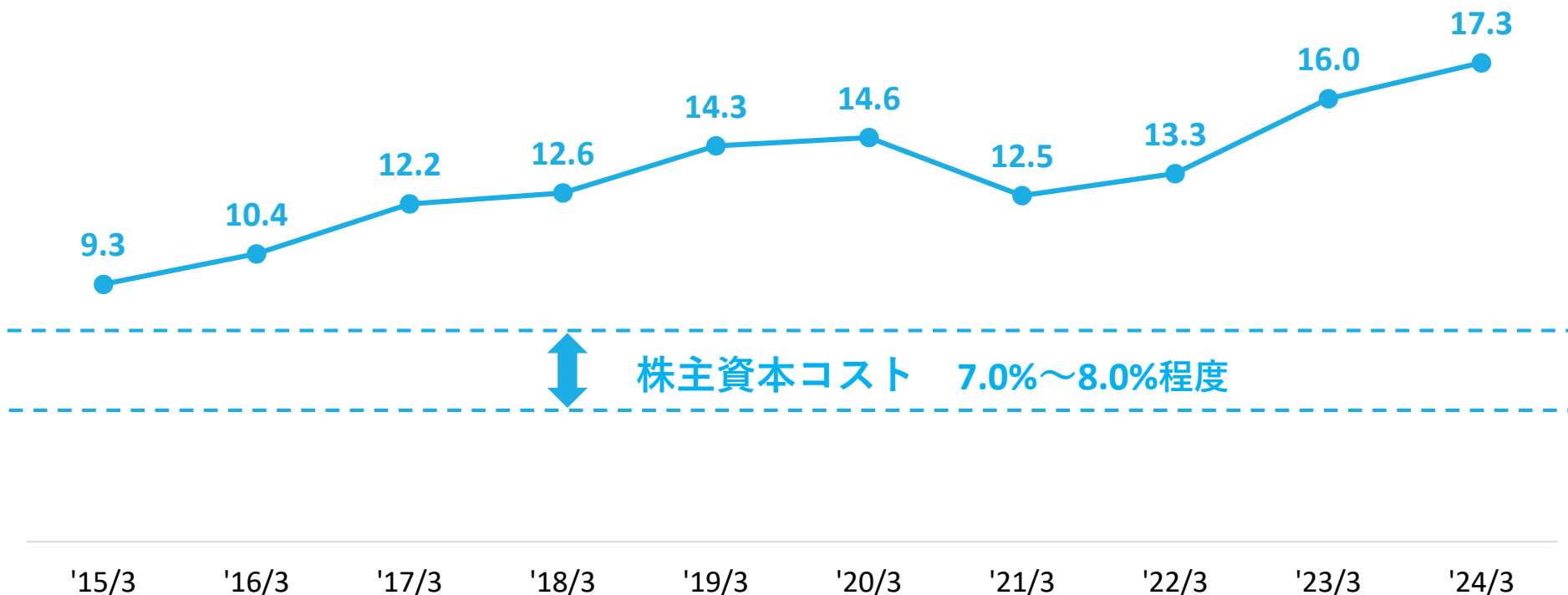
中央自動車工業株式会社

- PBRは2017/3月期から現在に至るまで1倍を上回っており、2024/3月期には、**2倍**を超え、2024/9末時点で1.7倍。
- 株価はコロナ禍等による低迷期を経て上昇基調にあり、2024/3月期には、**5,000円**を超え、2024/9月末時点で4,000円台後半の水準。



- 株主資本コストは**7.0%~8.0%程度**と認識。
ROEは継続して**株主資本コストを上回る水準**を実現。 ※株主資本コストはCAPMにより算出
- 今後も株主資本コストを安定的に上回る現状のROE水準を維持・上昇させ、市場評価向上を目指す。

ROEの推移と株主資本コスト

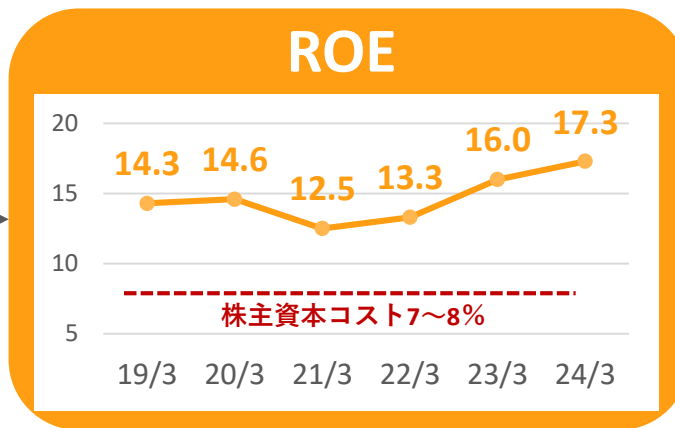
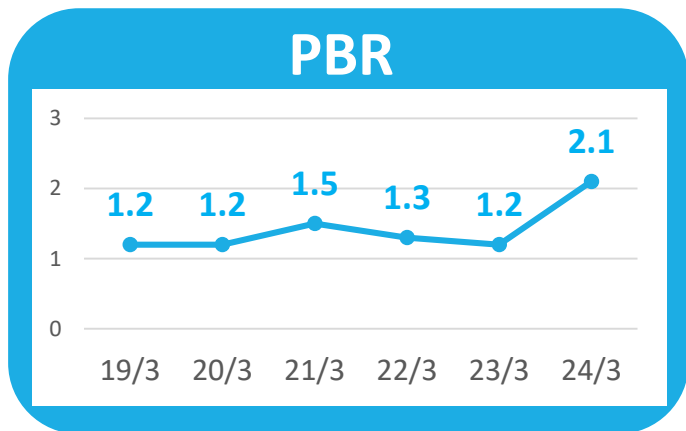


【PBRの分解】

$$\begin{array}{ccc}
 \boxed{\text{資本効率の評価}} & & \boxed{\text{資本効率の実績}} \\
 \text{PBR} & = & \text{ROE} \\
 (\text{株価純資産倍率}) & & (\text{自己資本利益率}) \\
 & & \times \\
 & & \text{PER} \\
 & & (\text{株価収益率}) \\
 \boxed{\text{利益成長の期待値}} & &
 \end{array}$$

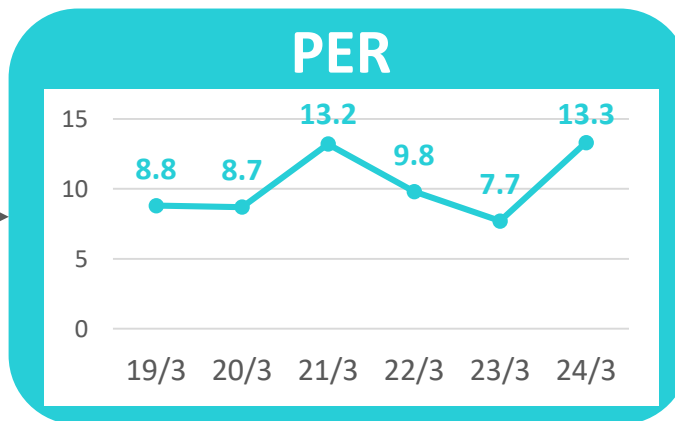
【PBR分析】

継続的に1倍を上回っているがさらなる向上を目指す。



【ROE分析】

目標値の10%以上を安定して達成し、継続的に資本コストを上回っているが、更なる向上を目指す。



【PER分析】

21/3期においては、ROEが悪化しても、PERが上昇することで、PBRの低下を防いでいた。投資家の期待感醸成が必要。

企業理念

「世界のネットワークを通じて環境にやさしく、安全と豊かなカーライフを創造して、社会に貢献する」

パーパス

「未来のモビリティ社会における最良のパートナー」

- 資本効率と株主還元に着目し、2025年度中期経営計画の達成を目指す。

(単位：百万円)

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2025年度 中計目標
売上規模	売上高	30,693	35,879	39,331	41,000	44,000
利益規模	経常利益	6,966	8,968	11,258	11,800	12,500
成長性	売上高増加率	+11%	+17%	+10%	+4%	+7%
収益性	経常利益率	22.7%	25.0%	28.6%	28.8%	28.4%
資本効率	ROE	13.3%	16.0%	17.3%	15.0%	15.0%
株主還元	連結配当性向	27.4%	26.9%	30.2%	30%以上	30%以上
	(単体配当性向)	(30.3%)	(30.2%)	(34.7%)		

【ROE向上施策】

- 株主資本コストを安定的に上回る現状のROE水準を維持・上昇させるために、以下の改善施策を推進する。

収益性の向上	<p>高付加価値商材拡販への一層のシフト</p> <ul style="list-style-type: none">・ コーティング剤、アルコール検知器、PB商材等、高付加価値の自社開発商材販売の強化 <p>新規事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・ 資本コストを上回る事業のM&A等の実施
最適な資本構成	<p>株主還元の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・ 安定かつ高配当の継続に加え、配当性向の引き上げも検討・ 機動的な自己株式の購入を実施 <p>財務レバレッジの活用</p> <ul style="list-style-type: none">・ M&A等、大型の成長戦略遂行の際には、投資機会を逃さず有利子負債も活用

【PER向上施策】

$$\text{PER} \uparrow = \frac{1}{\text{株主資本コスト} \downarrow - \text{期待成長率} \uparrow}$$

- PER水準を維持・上昇させるために、株主資本コストを低下させ、期待成長率を引き上げる施策を推進する。

<p>株主資本コストの低下</p>	<p>IR活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> • IRサイトリニューアル、発信強化 • TCFDを含めた非財務情報開示充実 <p>投資家との対話の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 株主・投資家とマネジメント層との対話を積極的に実施
<p>期待成長率の向上</p>	<p>広告宣伝の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • テレビCM、展示会出展、スポーツスポンサーシップ等 <p>成長戦略の発信強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 事業毎の成長戦略を積極的に発信

【配当政策】

- 収益力の強化と財務内容の充実を図りつつ、適正な利益配分を基本とし、安定かつ高配当の継続に加え、配当性向の引き上げも検討。

※ 2024/3月期より配当性向の方針を「単体業績の30%以上」から「連結業績の30%以上」と目標水準を変更した。

